

登録コード	MA751219	開講年度	2026				
授業科目名	病因・病態検査学特別研究（組織）					担当教員	木村 文一
英文授業名	Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation					副担当	
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象専攻 / 学年	保健学専攻 修士課程
講義室				授業形態	演習	授業科目区分	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)						
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。					研究計画を立て、病理学的研究を実施できる能力を有するようになる。	
	【保健学】国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。					英語医学論文を読み込み、海外で行われている研究を理解できるようになる。	
(2)授業の概要	本授業は担当教員の病理学・細胞学分野における実務経験ならびに研究経験を活かして講義ならびに研究指導を行うものである。 形態学的変化と病態と関連付けて分析 / 解析することにより研究を指導する。						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	疾患とりわけ悪性腫瘍における細胞周期関連タンパク質や細胞分化に関わるタンパク質の性質を理解し、説明できるようになる。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	細胞周期関連タンパク質や細胞分化に関わるタンパク質を分子生物学的技術や情報工学的技術を用いて証明する理論と技術について理解し、説明できるようになる。						
(5)授業計画	開講日時は受講学生と検討うえ決定する。 形態学的変化を、情報工学技術（画像解析技術・機械学習技術）ならびに免疫組織・細胞化学と関連づけて探求する。 ヒトや動物の組織・細胞を用いて各種解析を行う。						
(6)授業の進め方	講義および実習						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	PubMedなどを利用し、研究に関わる文献を検索、読解できる英語力を身につけること。 毎回、授業終了後に予復習のためのワークをeALPSにアップする。それは次回の授業で回収するので、自分で印刷して持参すること。						
(8)成績評価の方法	研究への取組状況、研究発表ならびに修士論文の完成度を総合的に評価する。						
(9)成績評価の基準	評価の基準は研究成果を論文化するために足る最低限の結果に至った場合は「水準にある」（可）、与えられた課題解決のため、指導に従い十分な成果がえられた内容であれば「やや上にある」（良）、あたえられた課題につき、自身で能動的に克服し、成果が得られた内容であれば「かなり上にある」（優）、自身で能動的に課題を見出し、それを自身で能動的に克服、成果が得られた内容であれば「卓越している」（秀）と判定する。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問および相談は随時受け付ける。 オフィスアワー kimura_f@shinshu-u.ac.jp 随時（要事前連絡）						
【テキスト，教材，参考書】	特に指定せず。						